所報

題字：武田満之校長（平成９年、野幌中学校）

第187号　令和6年12月20日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6　TEL381-1058

（主な内容）

・小学校、中学校外国語教育授業参観の実施報告

・江別市初任研修の実施報告

小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

１１月２８日（木）に江別第三中学校、１２月１３日（金）に文京台小学校で、今年度の英語・外国語参観授業が実施されました。この取り組みは、各小学校の外国語教育指導協議会の担当者に参加して頂き、紹介して頂いた実践を参考に、市内外国語教育の充実につなげていくことを目的に、平成２４年度から進められてきている取り組みになります。

小学校の授業は、担任の畠中教諭とＡＬＴ（外国語助手）のアンソニー・タータン氏が協力し、「What do you want to be？（あなたは将来、何になりたいですか？）」というテーマで、子どもたちが「I want to be a_____.（私は_____になりたい。）」の表現を用いて、将来の夢とその夢を希望する理由について、お互いに交流し合う学習を見せて頂きました。

聞き取った内容をイラストにする様子（文京台小）

学習展開としては、夢を紹介するために必要な基本文型を紹介し、その基本文型になりたい職業（日本語から、英単語に返還）を当てはめさせながら、ノートに会話文をまとめさせ、出来上がった会話文を基に、ペアで交流させながら発音や内容を確認していくように進められていました。その後、表現力をさらに高めるためにデジタル教科書を使って、参考例の英会話や、表現に必要な職業を示す英単語（新しく学ぶ単語）の学習を、ヒアリング（繰り返し）によって、強化していく取り組みが進められていきました。

授業のまとめでは、一人ひとりに「夢の紹介」を全体に発表させ、それを友達が聞き取りイラストにまとめていくゲーム形式の楽しい活動も持たれていきました。文京台小の授業では、全体的にアクティビティーに富んだ体験型の授業が進められ、明るく、笑顔で、生き生きと取り組む子どもたちの姿を見ることができました。

中学校の授業では、授業担当の宮下教諭とＡＬＴ（外国語助手）のロス・サザーランド氏が協力し、「Why do we have to work？（私たちは何故、働くの？）」というテーマの授業を見せて頂きました。教科書に登場する人物が考える「働く理由」を読み取り、それを参考に、「自分の働く理由」をまとめていくという大変難しい課題の授業となっていました。

授業の展開は、本時の課題に入る前にステップとして、２つの選択肢から１つの回答を選び出し、その理由について、小グループでディスカッションさせ（学力差の解消：低位層→表現に対する支援、上位層→教える体験を通した学習強化）、その後、全体に発表させる展開で進められていきま

した。課題に入っても展開的には、自分の考えをまとめ（個人思考の時間確保）、小グループによる交流（集団思考の位置づけ）と、同じ展開で進められていきましたが、考える資料として、教科書にはないオリジナルの資料（ＡＬＴの出身国：イギリスの状況）を追加するなど、生徒の考えを引き出す工夫がされていました。

対話形式で生徒の意見を聞き出すＡＬＴの様子（第三中）

両校の交流授業で意識されていたのは、単元の中で身に付けさせたい能力を、明確に示すこと（学習課題の提示）と、定着させるための必要な体験的学習を取り入れていることでした。

市内に配置されているALT（外国語助手）を、より効果的に活用していくためには、授業内での担任との役割分担が明確にすることが大切になってきます。「どの段階で」、「どんな目的を持ち」、「どんな支援方法でＡＬＴ（外国語助手）を活用するか」について、連携を図りながら進めていくことがポイントになってきますが、今回の交流授業はその手本となる実践となりました。

江別市初任研修の実施について

１０月２１日（月）に江別市が独自に主催する初任研修（対象：Ｒ２～４年度　江別市新採用教職員２２名）が実施されました。今回の企画は５月に実施された初任研修の後期研修で、第１期研修と同様に、同期の教職員が交流を持ち、連携を深めることを目的に行われました。

研修は２部構成で進められ、第１部では講師に江別市教育委員会教育政策推進員の小松義幸氏をお招きし、「保護者との連携」についての講話をしていただきました。教職員の研修では、教科指導、生徒指導は良く取り上げられるけど、保護者との対応に関する研修は、それほど多くは見られません。実践の中で役立つものにしたいということで、保護者と連携を取るためのポイントについて、小松先生が実践されてきた取り組み（①日常からのコミュニケーション、②子どもや保護者の思いを受け止める工夫、③教職員の思いを伝える工夫）について紹介して頂きました。また、小松先生は、小中連携の取り組みの関係で、市内の学校を訪問することが多く、その時に参観した受講者の実践を、お互いの交流がより深まるようにと、講話に交えて写真で紹介して頂く取り組みも見られました。若い教職員にとっては年上の保護者との対応は、プレッシャーに感じることが多く、上手くいかない場合は、一番の悩みとなることが多い問題になります。その課題を解決させるための貴重な講話となりました。

第２部では、「自己実現（究極の目標の実現）」をテーマに、自己実現するために必要な条件として、「①自分の好きなことができる、②好きなことで生活ができる」の２つ条件が紹介され、３つ目の条件があるとしたらどう考えるか、グループ協議する講座となりました。個々に考えた後に、グループで意見を交流し、全体に発表していく形で進められていきました。発表では、「周りから認めてもらえる」「誰かの役に立つことができる」「目標が変化しても探究し続けられる」等、たくさんの回答があげられていきましたが、他者とのつながりを意識した回答が、中心になっていたように思われました。

初任研で、グルー交流する受講者の様子

グループ協議の最後に、講師から「教職員は、日常生活の中で、学習と一緒に人とのつながりを作っていく職業なので、話し合った３つ目の条件と深くかかわっていくことになります。「自己実現」に向けてサポートできるように、意識していって欲しい。」と、まとめの言葉を頂いた研修となりました。